

しおさい



CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑭ ふるさと見聞録^{いりぐち}: 入口を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし: 東通村大豆・そば組合……………4
- ファイト! わんぱく: 東通小学校吹奏楽部……………4
- クローズアップ こんにちば元気さん^{はたなか ともこ}: 畑中 智子さん……………5
- 地元の特派員レポート: 橋本^{はしもと} 玲皇くん^{れお} / 坂本^{さかもと} 早希香さん^{さきか} / 笹竹^{ささたけ} 重則さん^{しげのり}……………6
- 達人がつくる簡単料理!: 東通牛ももステーキ丼……………6
- 焼きイカの肝味噌ソースがけ……………7
- 発電所インフォメーション……………8

たわわに実ったブルーベリー

vol.15

平成28年度発行

東北電力(株)東通原子力発電所

東通村「第一消防団」の誇りある集落!

い り ぐ ち

入口を訪ねて

伝統の「獅子舞」を、地域が心ひとつに伝承!

津軽海峡に面した野牛漁港の西側に東西に長く伸びた集落が入口地区です。「入口」の名前は、田名部方面から北に向かうと最初に海が見える入り口の場所であったことから名付けられたようで、「入口」に対して小田野沢には「出口(でぐち)」という地名が存在します。

集落としての歴史を紐解くと、享和3年(1803)の「仮名附帳」に野牛の枝村と記されていますが、言い伝えでは今から400年以上前、秋田県大館から修験者の姿をした人が住み着いたことが始まりとされ、それを裏付けるように、今も「大館」という名字が残されています。

明治時代、海岸は砂浜だったことから、地引き網でイワシが数千石も獲れ、油かすをとって肥料にしていました。のちに漁業の主力はイカやコンブ、ホタテへと移行していきました。

また、江戸時代から野牛の山では砂鉄がとれ、昭和28年から40年代までは数社が砂鉄を採取し、船で北海道へ積み出していたそうです。

伝統芸能は、明治時代、岩手県二戸郡から山伏神楽が伝授され、「獅子舞」として今も入口青年会によって大事に受け継がれています。毎年1月4日に、かしわの館で行われる「幕納め」(発表会)では、12演目中8演目が披露されます。



獅子舞「三番」

また東通村で、最初に消防団を結成したのが入口地区で、住民たちは誇りを持ち、第一分団を掲げています。それはかつて入口地区がイワシによって財力を成し、地域住民を災害から守るため、いち早く腕用ポンプ車を導入したからだといわれています。

長窪稲荷神社の春祭りは毎年4月10日に行われ、豊漁を祈願。秋祭りは10月10日に行われ、豊漁に感謝し船屋台の山車を曳いて地区内を練り歩きます。

現在地区の人々は、漁師だけでなく、それぞれ異なる仕事に就いていますが、互いに協力し合い、心をひとつに、地域活動を行っています。



正一位長窪稲荷神社



船屋台山車



復元され東通消防署で展示している大正時代の腕用ポンプ

〈腕用ポンプ〉
放水量は毎分約200リットルと、当時としては優れた性能を有し、操作も簡単で、ガソリンポンプ等が出現するまでの間、火災現場でその威力を発揮したといわれています。

お正月や東通村子ども会郷土芸能発表会、長窪稲荷神社の春祭り、秋祭りなどで、子どもたちが獅子舞の「三玉荒神」などを舞っています。今年も、数年間途絶えていた「田植え餅つき踊り」を復活させることができました。地区に学校がなくなり、子どもたちがこの家の子かわからなくなっている中、たくさんの方の行事に参加させることで、この子かわかり、声をかけ、地域で子どもたちを育てられるような、環境づくりに励みたいと思います。



入口子ども会育成会会長
あかだ まさとし
赤田 正寿さん(49歳)

長窪稲荷神社は、正徳6年(1716)に勧請された神社です。豊漁を祈願する春祭り、豊漁に感謝する秋祭りは、神のご加護で地域のみんなが健康に過ごせるよう願う儀式。「獅子舞」の祈禱舞を奉納します。秋に船屋台の山車を曳くときは、1軒から1人が必ず参加し、協力してくれています。人口は年々減っていますが、いつか昔のような賑わいが戻るよう、心から願っています。



長窪稲荷神社氏子総代
なかの かずお
中野 一雄さん(63歳)



津軽海峡に面した入口集落

全国でも珍しい「獅子舞」を伝承

東通村には「能舞」とも「神楽」とも異なる、平成3年3月2日に指定を受けた青森県無形民俗文化財の「東通村の獅子舞」があります。伝承しているのは、村内2つの集落で、その1つが入口地区です。

能舞の五拍子に対し、獅子舞はアップテンポで力強い三拍子が特徴。入口青年会により大切に受け継がれています。

伝承は12演目。曾我兄弟や鞍馬などの「武士舞」のほか、40年前に復活させた「さんぼうこうじん三宝荒神」は、逆立ちや宙返りなどアクロバチックな演技が見物です。20年前に復活させた「うりけんまい乗り権現舞」は、神に乗ろうとして振り落とされる獅子舞です。

お正月の門打ちでは、集落内全戸に「祈祷舞」をして回り、新築の家では屋固めも行います。1月4日の幕納め（発表会）には多くの人が集います。

昨年11月には、青森県を代表して第57回北海道・東北ブロック民俗芸能大会に出演。獅子の上に人が乗る珍しい「うりけんまい乗り権現舞」が、大きな注目を集めました。



乗り権現舞



三宝荒神

入口地区 会長

よしだ あきみ
吉田 昭美さん(74歳)

海沿いに面した入口地区は、世帯数115戸、人口約380人の集落です。みんなで協力しながら、神社の春祭りや秋祭りをはじめ、清掃作業も地区民一丸となって行っています。

入口消防団は、村が誇る第一分団です。先人の心意気を今後も受け継いでいきたいと思います。

また、他にどこにもない三拍子の「獅子舞」を、若い人が希望を持って後世に残せるよう、互いに協力し合い、地域の発展に尽くしていきたいと思います。



獅子舞を継承する青年会は、18歳から45歳までの13人。協力会（OB）の力を借りて頑張っています。12月19日の幕開きから打ち習いが始まり、4日の幕納めでは、「儀礼舞」の鳥舞、「武士舞」の鞍馬、「道化舞」のねんず、復活させた「うりけんまい乗り権現舞」などを演じます。獅子舞は神事であり、扱う期間は肉を絶対に食べないんですよ。これからも、どこにもない三拍子の躍動感あふれる獅子舞を絶やさぬよう、肅々と伝統を受け継ぎ、次の世代へ伝えていきたいと思います。



入口青年会長
まるこ かずや
園子 和哉さん(42歳)

東通村内20分団のうち、入口地区は、先人たちが築いてくれた栄えある第一分団です。だから他の分団の手本になる礼式や訓練を行わなければならないと思っています。

19人の団員とともに、春と秋の火災予防運動地区の巡回、観閲式、出初式などで、防火活動を行っています。

分団長になって11年目。これからも無火災を目指し、地域住民の生命と財産を守るため、頑張りたいと思います。



東通村消防団第一分団長
いやはぎ はるみ
伊柳 晴美さん(55歳)

明日への かけはし

東通村大豆・そば組合

無農薬、石臼挽きの
おいしい東通そばを作る!

東通村内で生産された、そばの刈り取りから、殻が付いたままの玄そばの買い上げ、そば乾燥貯蔵施設での乾燥、製粉、管理まで、そば作りの作業受託を行っているのが東通村大豆・そば組合です。

東通村では、平成11年度から「そばの里」復活を目指す事業がスタート。翌年、水田の転作作物として無農薬によるそば作りが始まり、作業受託組織として東通村大豆・そば組合を結成。村内で生産されたそばを組合が買い取る体制を作りました。

そして、平成17年には低温貯蔵施設が完成し、石臼製粉機を3台導入。



組合長の杉本稔さん

いつでも新鮮なそば粉を提供しています。

現在、村内のそばの作付面積は約70町歩です。今年のそば作りは、7月上旬から中旬にかけて玄そばであるタネを蒔き、無農薬で育成。8月上旬から中旬に花が咲き、自然交配で実をつけ、9月中旬に刈り取る計画です。東通村は昼と夜の寒暖差が大きいため、おいしい秋そばが育つのです。

刈り取ったそばを乾燥させ、注文を受けてから石臼でゆっくりと製粉します。石臼で挽くことにより、粉の温度が上がらず細胞が分解されないの、おいしいそば粉ができるそうです。

また東通村産業振興公社では、乾麺の「十割そば」を開発中で、組合では玄そばを提供する予定。贈答用としての



そば乾燥機



そばの殻むき機



冷温で貯蔵される玄そば

消費拡大も期待されています。

東通村大豆・そば組合の杉本稔組合長は「そばは、村の特産品です。組合があるからこそ耕作地を放棄せずに済んでいる現実があります。今後も遊休農地を減らし、そばの作付面積100町歩を目指して頑張りたいと思います」と話していました。



石臼挽き



石臼挽きを点検する杉本組合長



東通小学校 吹奏楽部

みんなで協力し合い、教え合い、美しい音を奏でようと頑張っている東通小学校吹奏楽部。昨年行われた青森県アンサンブルコンテスト下北地区大会では、木管七重奏で銀賞、金管打六重奏は銅賞を受賞するなど、チームワークの良さが際立っています。

部員は4年生から6年生までの20人。八谷智顧問をはじめ、高松留美子先生、田中絵夢先生指導のもと、週4日間、放課後に音楽室で練習しています。昼休み

は、自主的に音を出すという頑張り屋さん揃いです。

練習方法は、楽器を準備し、今日は何をするかミーティングを行ったあと、肺活量を高めるために全員でランニング。次に木管と金管に分かれてパートごとに練習。基礎を大切に、一音一音丁寧に、きれいな音をイメージしているそうです。みんなが演奏できるようになったら、音楽室で合奏です。



練習カリキュラムの部員ミーティング



肺活量強化のためのランニング



おいしく育つよう丹精込めてブルーベリーを育てる畑中智子さん

「仕事をリタイアしたら、今日行くところがある『きょういく』と、今日用事がある『きょうよう』が、とっても大事だと思うんです。自分たちが健康づくりのために開いた農苑に、たくさんの笑顔が集うことは、一番うれしいですね」。東通村上田屋で「あべらベリー苑」を営む畑中智子さんは、そう話します。

農業を始めたのは、今から10年前のこと。「主人が心筋梗塞になって、定年前に退職することになったんです。上田屋生まれの主人は、先祖から受け継いだ土地があったし、仕事を辞めて畑で何か作るなら、村の特産品で、体力も使わないブルーベリーを無農薬で育てようということになりました」と智子さん。

ところが、それまで全く農業をしたことがない2人。1年目は100本植えて



「あべらベリー苑」の休憩所と売店。「あべら」の名前は、地元を流れる「青平川（あおへらがわ）」が訛った地元の言葉

アップ こんにちは 元気さん

村内で元気に活動する人を紹介!

元気さん

あべらベリー苑

はた なか

とも こ

畑中 智子さん(69歳)

東通村上田屋で、村特産のブルーベリーなどを育て、収穫も体験させてくれる「あべらベリー苑」。東通村診療所「野花草薢の里」で看護婦長を務めていた畑中智子さんと、下北地域で校長先生をしていた畑中威義さん夫妻に、素敵な第2の人生についてインタビューしました。

すべて失敗。「土壌は酸性。土はふわふわにし、堆肥はダメなんて全く知らなかった。本を買って独学で勉強し、日本ブルーベリー協会に入って全国の園地を訪ね、4年目くらいで、やっと実をつけるようになりました」と明かします。

とにかく、大きくておいしいブルーベリーを育てたいと、無農薬でも元気に育つよう、木を丈夫にするところから始めたそうです。剪定で実を大きくし、ミネラルたっぷりの昆布と清流の水を土に与えて育成。収穫は、最もおいしいといわれる、自然に実が落ちる時期まで実らせるこだわりようです。現在、1町歩に35品種を植え、7月15日から1ヵ月間、摘み取り体験も行っています。

「ただ観光摘み取り体験をするんじゃないく、子どもには楽しく、大人には癒しの場を!と考え、木の遊具、アスレチック、9張のハンモックを用意しました。障害のある人や、小さい子ども連れのお母さ

んも安心して遊べるよう、バリアフリーの休憩所も設けました」。このほか、4月から11月までの週3日、農苑を障がい者のための作業療法の場として提供したり、医学生に農と福祉の連携を見学していただいたり、新社会人に農業体験をと、常に様々なことに挑んでいます。

「私たちは、毎日楽しく過ごしているから、大変なことはないの。普段、家で介護をしている人や、子育てに忙しいお母さんがここに来て『さっぱりした〜』って言ってくれると、少しでも誰かの役に立てているのになって、うれしくなる。今後は、みんなが気軽にお茶を飲める場も提供したいですね」と満面の笑み。生き生きと元気に過ごすご夫婦。その表情は、ずっと煌めいていました。



ブルーベリーの摘み取り体験を楽しむ、東通小学校の子どもたち



ご主人の畑中威義さんと智子さん

発表は、学芸会のほか、東通ふるさとまつり、トンツのサマーコンサート&サマーフェスタで行われ、毎年地域の人々から大きな拍手を受けています。

部長で6年生の丹内楽々さんは「みんなと息を合わせて合奏するには、自分自身の努力と仲間同士との信頼関係がとても大切だと思います。新学期が始



吹奏楽部のみなさん

まり人数も増えたので、チームワークの良さを保ちながら、迫力ある演奏ができるよう頑張ります」とにっこり。

高松先生は「吹奏楽は究極のチームプレーです。気持ちひとつに下北地区大会で力を発揮し、今年は県大会出場を目指します」と話していました。



子どもたちが大好きな「かっぱねぶた」の合奏

部長の
たんないら
丹内 楽々さん
(6年)





東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

●写真は特派員が自ら撮影したものです。



歴史ある 蒲野沢八幡宮!

東通村蒲野沢在住
東通小学校(6年)
はしもと れお
橋本 玲皇くん
(11歳)

ぼくは蒲野沢八幡宮について興味があり調べました。そこで、直接氏子総代の方々からお話を聞きました。

蒲野沢八幡宮は1624年に建てられ400年近い歴史があります。これまで古くなったり焼失したりして、何回も再建されたそうです。最近では、昭和55年に屋根などを直し、部落みんなで行列してお祝いをしたそうです。



蒲野沢八幡宮

八幡宮には八幡様と蒼前様と大黒様がまつられています。9月14日、15日の宵宮と例大祭には、祈禱のあと青年会や子ども会で能舞と手踊りを披露し祭りを楽しめます。

また、大黒様の着物を新しくしたことをきっかけに、平成20年に約100年ぶりの山車運行が行われました。ぼくが初めて見たときは小さかったけど楽しかったことを覚えています。

これからも歴史ある蒲野沢八幡宮を大事にしたいです。



山車運行



山車



八幡宮の額



優しさ いっぱいの 白糖

東通村白糖在住
さかもと さきか
坂本 早希香さん
(20歳)

私の生まれ育った白糖は、東通村の一番南の位置にあります。東通村の中では最も人口の多い地区で、診療所や郵便局などいろいろな施設があります。

2014年に
開通した白
糖から六ヶ
所村の泊ま
での道路は、



泊・白糖トンネル

それまで細くて狭い危ない道路を通らなければいけなかったのに、トンネルができたお陰ですぐに六ヶ所村に行けるようになりました。

白糖には物見崎灯台があり、その周りには太平洋の漁場が広がっており、漁業が盛んな集落です。そのお陰で、



物見崎灯台

いつも新鮮で
活きの良い
海産物をい
ただくこと
ができます。

達人がつくる簡単料理!

東通牛ももステーキ丼

〈材 料〉

東通牛もも肉150g、キャベツ適量、万能ネギ少々、赤ワインか酒大さじ2、サラダ油少々、ご飯適量

〔たれ〕

みりん、しょうゆ各大さじ2、酒小さじ1、ケチャップ、おろしにんにく各小さじ1/2、うまみ調味料少々、バター5g

〈作り方〉

- ①東通牛のもも肉は、焼く5分くらい前に、両面に塩こしょうをふっておきます。
- ②キャベツは、せん切りにして水にさらしておきます。
- ③フライパンにサラダ油を敷き、強火で片面を焼き、こんがりとし、焼き色がついたらキッチンペーパーで油を拭き取り、アクをとります。肉を裏返し、中火にして焼き上げます。
- ④肉を取り出したフライパンに赤ワインを入れ、火をつけて沸騰してきたら、たれの材料を入れて煮詰めます。
- ⑤ご飯に、せん切りのキャベツを乗せ、肉をカットして盛りつけ、④のたれをかけ、万能ネギをふりかけます。



達人のワザ

●たれにコクを出すためバターを入れます。キャベツは流水にさらし、シャキシャキにして使いましょう。



白糠漁港を望む

また、物見崎灯台から見る風景はとても綺麗で、私の一番大好きな景色です。

江戸時代から白糠漁港は漁業基地として栄え、下北半島南部の避難港としても重要な漁港だったそうです。

白糠地区では、7月19日には赤岩神社の例大祭で、盛大に夏祭りが行われます。子どもから大人まで楽しめる行事になっています。



赤岩神社

海・山・川に囲まれている白糠は、春夏秋冬それぞれにいろんなものを旬のまま食べることもできます。神社もいろいろあり、歴史や文化もとてもたくさんあるそうです。

私は小さいときから優しい人たちに囲まれて育ち、今でも地元白糠で過ごすことができ、とっても幸せだと感じています。



自慢のできる集落

東通村石持在住
さきたけ しげのり
菅竹 重則さん
(64歳)

私の住む石持は、むつ市より北西に10km余りで海岸線からは2kmの地点に位置し、約70世帯の半農半漁の集落です。集落の起源についてはわかりませんが、古い資料によれば「開村当時はわずか6戸だけの小部落で、稲崎部落より移り来たれるものなり」と記されています。今の集落が形成されたのは比較的新しい年代と考えられますが、昭和29年に石持納屋付近が発掘調査され、縄文文化前期と中期時代の土器(役場庁舎展示)が出土しており、古い歴史のある集落であると思われます。また、集落には有名な牛石があります。菅江真澄(1754-1829)は、寛政6年(1794年10月)石持を訪れ「石持てふ山里に祭る石神にまうでんとていづ」、「産いづる さざれも岩と



石持納屋遺跡 縄文土器



巖崎神社

栄行 末まもりませ 石持の神」と歌を詠んでいます。今の拝殿の隣に建つ祠が石神様です。もとは大きな巖であったものが、砕けて現在の姿になりました。

今、下北管内ではジオパーク構想の実現

を目指しています。むつ市美付から野牛にまたがる「北部海岸」は約8kmにわたり、高さ約20mほどの砂の地層が見られ、隆起と縄文時代の海水準の変動により海成段丘(海岸段丘)が出来たとのことです。

特に、石持納屋から稲崎までの木目海岸はその地層が良く確認できます。

私が言うまでもなく、東通村には29の集落が点在し、各々の地域には独自の歴史と文化があります。当集落においても、私の知らない事がたくさんあり勉強不足です。今後、次世代に恥じぬよう、この自然豊かな地域を良く理解し、地域の伝統と文化を守り、将来にわたり子供たちにも自慢のできる集落でいられるよう自分なりに地域社会に貢献したいと思います。



石神様



木目海岸



木目海岸の地層

焼きイカの肝味噌ソースがけ

〈材 料〉

スルメイカ1パイ、長ネギ20g(粗みじん切り)、椎茸1枚(粗みじん切り)、大葉2枚(せん切り)、サラダ油適量

〈たれ〉

味噌大さじ1、酒大さじ4、みりん、しょうゆ、うまみ調味料少々

〈作り方〉

①イカは、胴から肝と足を抜き取ります。次に足から肝を切り取り、スミを取り除いておきます。

②たれの材料を鍋に入れ、中火で2分～3分、炒め煮します。

③小さめのフライパンにサラダ油を敷き、中火で、肝、椎茸、長ネギを炒め、②のたれを入れて火を通します。

④フライパンにサラダ油を敷き、イカの胴と足を入れ、ふたをして焼き上げます。

⑤焼き上がったら切って皿に盛りつけ、③のたれをかけ、最後に大葉を乗せます。



達人のワザ

●イカはキッチンペーパーで水気を拭き取ってから焼くと、油はねしにくくなります。また、イカに切れ目を入れておくと、見た目も良く火が通りやすくなります。

今回の達人



村おこし酒蔵「だんどこどん」

たねざわ ひろし
料理長 種澤 博志さん(59歳)

●プロフィール

むつ市(旧大畑町)出身。田名部高校を卒業後、東京のレストランで8年間修行。むつ市の和風料理店とホテルで腕を振るう。15年前から「だんどこどん」の料理長。東通牛、大間のマグロ、下北のイカなど、鮮度の良い地場の食材そのものの味を生かした、和洋アレンジ料理を得意とする。「お客様に最後まで美味しく食べていただけるよう、工夫しながら料理を提供しています」と話している。

発電所インフォメーション

東通中学生を対象とした次世代層支援



次世代を担う、東通中学校の皆さんの個性や才能をのびのびと育てる環境づくりをお手伝いしております。

平成27年度は、「東通原子力発電所職場体験(1年生)」、「出前放射線教室(1年生)」、「環境エネルギー教室(3年生)」、「Hip-Hopダンス教室(1、2年生)」を開催しました。

実験や体験を交えての「出前放射線教室」や「環境エネルギー教室」での生徒の皆さんの真剣に考える姿や、「Hip-Hopダンス教室」での楽しそうな表情が印象的でした。今後も子どもたちの健やかな成長を応援してまいります。

来さまいフェスタでよさこい鳴子踊りを披露



8月30日、「ひがしどおり来さまいフェスタ2015よさこい下北」で、東通原子力発電所のよさこい鳴子踊り愛好会総勢42名により、よさこい鳴子踊りを披露しました。

6月から練習に励み、本番ではその成果を発揮することができました。そしてたくさんの皆さまに大きなご声援をいただきました。

環境・エネルギー関連副教材の寄贈



毎年、東通村の子どもたちに、電気やエネルギー、地球環境などへの理解を深めてもらうため、東通小学校・中学校へ図書やDVD、実験器具などの副教材を寄贈しております。

平成27年度も11月と3月の2回、東通村役場庁舎にて寄贈いたしました。

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」
「環境木」を使用しています。

編集後記

当社の新しいコーポレートスローガン「より、そう、ちから。」
皆様のご要望により沿うサービスを提供すること、そしてこれ
からも地域の成長・発展にしっかりと寄り添うこと、の2つの
意味があります。

おかげさまで「しおさい」は第15号の発行となりました。東
通村の皆様にとしっかりと寄り添った内容で、楽しんで読んで
いただける広報誌を目指して作成してまいります。

これからもご愛読下さいますよう、よろしくお願いいた
します。